

## 東区ウォーキングノート～まち歩きの達人編～ はじめにナナメありきー東区の古道探訪ー

文・写真：杉浦 正人（札幌建築鑑賞会 代表）

東区の碁盤目の街区を南西から北東にかけて、ナナメに細い道が通じています。正式な名前は「道道花畔札幌線」ですが、“ナナメ通り”という通称のほうがなじみ深いでしょう。周辺の幹線道路に比べると道幅が狭いのですが、“れっきとした”北海道道です。



図1：色別標高図（標高10m未満から1mごと15m以上まで7色段彩、国土地理院サイトから作成）

に以下を加筆

赤い太実線：今回歩いたコース、白い太実線：伏籠札幌川の跡、

赤い●白ヌキS：出発点（東区役所）、同G：到着点（札幌村郷土記念館）、白い○：石造りの倉庫

東区役所から「東8丁目・篠路通」を北9条まで南下すると、五差路が見えてきます。ナナメ通りとの交差点です。左に曲がってナナメ通りを北上する前に、東8丁目・篠路通を南向きに目を向けました。先が少し下り坂になっています。

ナナメ通りを 300m 余り進んだところで、右手に石造りの倉庫が目に入りました。さらに行くと、ヤナギやヤチダモの大きな樹が道端に立っています。古刹・大覚寺を過ぎると、こんどは左手に石造りの倉庫です。さらにまた、左手に石造りの倉庫が二棟並んでいて、一棟は食堂、もう一棟はセレモニーハウスになっています。古くからの建物が新しく再利用されているのはうれしいことです。



図 2 : 石造りの倉庫を再利用した食堂

ナナメ通りは「北 13 条・北郷通」で変形交差点にぶつかります。東へ進んで郵便局の角を北へ折れるのですが、その前に北 13 条・北郷通を東向きに眺めます。やはり、少し向こうで下り坂です。これも気にしながら北へ進むと、右手に札幌村郷土記念館が見えます。今回のまち（道）歩きは、ここがゴールです。東区役所から約 1.4 km、歩数にして大体 2,000 歩になります。

歩いてみて、二つのことに気づきました。一つは途中で述べたように、ナナメ通りと交わる道路が少し離れたところで下り坂になっていることです。これは、ナナメ通りが小高いところに通じていることを意味します。下り坂になっているところは、かつて伏籠札幌川とい

う川が流れていました。ナナメ通りはこの川に沿って少し高いところを選んで造られたことがわかります。この道は今から 150 年以上前、幕末から明治の初めに開かれました。その前から、踏み分け道として先人が歩いていたのかもしれませんが。わずかな土地の高低差から、歴史が伝わってきます。

気づいたことのもう一つは、道沿いに石造りの倉庫が幾つか残っていることです。おおむね 60 年以上前、昭和 30 年代前半に建てられたもので、タマネギなどの農産物が収蔵されました。この通りに沿って、この時期に、石造りの倉庫が建てられたのはなぜでしょうか。その理由に想いを巡らせながら、こんどはもう少し北の方まで足を延ばしてみましよう。

参考文献：札幌村歴史研究会『東区今昔 大友堀』1982 年

筆者紹介 杉浦 正人さん

1991 年に発足した札幌建築鑑賞会・代表。

「わが街の文化遺産を再発見」をテーマにしたまち歩き行事の開催や、地域の歴史を調査・研究しています。

